明るい家庭づくり作文

家庭のあり方や役割をテーマとして、広報かさおか8月号で募集した「明るい家庭づくり作文」に1，947点もの応募をいただきました。
優秀賞に選ばれた作品の中から中山浩希くん（中央小学校三年）の作品「ぼくのお母さん」を紹介します。

ぼくのお母さん

ぼくの家族は、四人家族で、お父さんとお母さんと弟の四人です。家族の中で、お母さんだけが女です。だからお母さんは、毎日大いそがしです。せんたく、そうじ、しょくじのしたくに、ぼくたちの世話です。お母さんは、毎日休む時がなくて、ぼくは少しかわいそうだなあと思います。でも、お母さんは毎日とっても元気です。朝起きるのも、毎朝お母さんの大きな声で目がさめます。お母さんの大声でぼくたち家族の一日がスタートするのです。だから、お母さんがいなかったら、大へんです。

この間、お母さんがかぜをひいて病気になったことがありました。その時は、朝からお父さんとぼくと弟の三人でバタバタと大あわてでした。お父さんは、ごはんが作れないから、ぼくと弟に、

「バナナでも食べて行けえ。」

と、一本ずつバナナをわたしてくれました。

ぼくは、

「ええっ、バナナ一本だけえっ。」

と、言いました。お母さんだったら、かならず朝ごはんを作ってくれるのに…。その時、毎日お母さんが作ってくれていた朝ごはんがきゅうに食べたくなりました。いつもは、お母さんに、

「しっかりごはん食べて行かんと、勉強できんでえっ。」

と、朝からいっぱい食べさされるのがいやだったけど、その時、お母さんのごはんがこいしくなりました。お母さんは、いつも口うるさくていやだと思っていたけど、お母さんの声がしない家の中は、何だかさみしくて、ぼくは、やっぱりお母さんがいないとだめだと思いました。ぼくは、心の中で、早くお母さんの病気がなおりますようにと、かみ様におねがいしました。ねているお母さんを見ていたら、ぼくはとても心配になりました。その時、ぼくは、やっぱりお母さんが大すきなんだと思いました。

中山　浩希くん

ぼくの家では、お母さんが毎日、ぼくと弟にニコニコちょ金というのをしてくれます。ニコニコちょ金というのは、お母さんが、ぼくと弟を一人ずつ、ぎゅうっと、だっこしてくれることです。弟のかずやは、ほいく園だから、よろこんで毎日してもらっているけど、ぼくは、なんだか少しはずかしいです。でも、友だちとケンカして、いやな気持ちの時や、勉強が分からなくて、イライラしている時に、お母さんからニコニコちょ金をしてもらうと、すごく安心した気持ちになります。だから、本当は、ぼくもニコニコちょ金がすきです。これからも、少しはずかしいけれど、やっぱりニコニコちょ金をしてほしいなあと思います。

いつも元気で、ぼくたち家族のことを考えてくれるお母さん。ぼくは、大すきです。

（この作文は、原文のまま掲載しました。）

「明るい家庭づくり作文」優秀作品

学校名	氏　名	題　　名
中央小学校１年	中野（なかの）　一志（かずし）	おとうさんは、しょうぼうだん
真鍋小学校２年	久一（ひさいち）　純也（すみや）	ひいばあちゃんといもうと
中央小学校３年	中山（なかやま）　浩希（こうき）	ぼくのお母さん
笠岡小学校４年	黒川（くろかわ）　翔（しょう）	いとこのひなちゃんとぼく
陶山小学校５年	佐藤（さとう）　静穂（しずほ）	大好きな大きいおばあちゃん
大島小学校６年	仁科（にしな）　裕成（ひろしげ）	おじいちゃんの家に手伝い
笠岡東中学校１年	木村（きむら）　仁美（ひとみ）	我が家流、コミュニケーションの取り方
笠岡東中学校２年	河本（かわもと）　大輝（だいき）	父さんと僕
笠岡西中学校３年	藤井（ふじい）　裕子（ゆうこ）	私と弟と剣道
新山小学校　保護者	高木（たかぎ）　ゆかり	家族を思う

【敬称略】